

人吉高等学校五木分校 令和6年度(2024年度)学校評価表**1 学校教育目標**

教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉・球磨地域にある普通科の人吉高校の分校として、五木村の豊かな自然環境の中、小規模校の特長を最大限に生かして、心豊かで調和のとれた社会に貢献できる人材を育成します。

そのため、生徒の多様な進路希望を叶える個別最適化した学びを充実するとともに、一人一人の個性と自主性を尊重し、地域と連携した多様な教育活動を目指します。

今後は、体験活動や探究活動等を通して、生徒が自己実現に向かう心を育み、実践力や自己管理能力など幅広いキャリア教育の充実を図ります。また、ICTを積極的に活用し、分校と本校を結ぶ遠隔授業の実施や地元の小中学校や関係機関との連携を深め、地域に根差した特色ある探究的な学びを展開します。

2 本年度の重点目標

教育スローガン「一人一人が輝く分校生！」

- 1 基本的生活習慣と学習習慣の確立を通して自己管理能力を育成し、自己実現に向かう心を育成する。
- 2 ICTを活用した教育活動の進化と深化による、主体的・対話的で深い学びを充実させる。
- 3 進路指導の充実を図る。
- 4 多様な生徒への対応に努める。
- 5 地域に根ざした特色ある取組を推進する。
- 6 校務改革に取り組み、生徒と向き合う時間を確保し、職員の多忙化の解消に努める。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	信頼される学校づくり	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの充実。 ・分校ニュースの発行。 ・「地域とともにあら学校」の実践。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを週2回以上更新し、アクセス数が一日平均100を超す。 ・生徒の頑張りを情報発信する分校ニュースの毎月発行、保護者、地域機関、五木村民、出身中及び学校運営協議会への配付とホームページへの掲載。 ・学校行事等を地域へ発信。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1年をとおして、ホームページの更新を実施した。アクセス数は1日平均158件（前年比+35）であった。 ・情報発信として分校ニュースを関係機関に毎月届けた。部内で作成を、分業することで速やかに作成できた。
	ボランティア活動の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献のための環境美化活動の実施。 ・地域の交通安全運動の協力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考查最終日及び夏休みに学校周辺の清掃・美化活動を全校生徒・職員で実施（学期に1回以上、年3回以上目標）。また地域と連携を図り新たなボランティア活動を模索する。 ・春と秋の交通安全週間にあわせ交通安全啓発運動「タッチ運動」を実施。 ・毎月初めにあいさつ運動を実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考查後のボランティアを3回計画したが、天候不順もあり、校外活動1回校内活動2回となつた。また、個別募集のボランティアには2名が参加した。 ・生徒の活動意欲は高く校外、校内に関わらず意欲的に活動できたものの各自のボランティアへの意識向上をいかに進めていくかが今後の課題である。 ・タッチ運動とあいさつ運動では、苦手な生徒を周りがサポートして取組地域の方からも温かく返事を返してもらい達成感へつなげられた。

	五木秀麗会との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 秀麗会、保護者懇談会等を通した連携。 保護者の協力を得ながら運動会等の各種行事の成功。 	<ul style="list-style-type: none"> 秀麗会会長との連絡を密にし、連携を図る。 日頃からの担任と保護者の密な連絡・相談等を通して、良好な協力関係を構築。 Googleclassroomを活用し積極的な配信。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 秀麗会と学校の連携により、役員同士の連携と学校行事の活性化、教育活動への協力体制が向上した。 「五木分校保護者クラスルーム」に保護者限定分校ニュース電子版を配信、多くの写真を掲載し、日常的な生徒の様子を伝えた。
地域に密着した教育活動の充実	地元保育所・五木東小学校・五木中学校との合同事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 第12回保小中高合同大運動会の円滑な運営と成功。 小学校や中学校との交流、合同研修会や行事の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元保育園・小学校・中学校及び各校種PTAと密接な連絡体制の構築と連携。 本年度の担当校として、合同運動会のアンケート等を分析。 救急講習、防災教育、各種講演会等における中学校との合同開催の実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 12年続いている五木村保小中高合同運動会では、当番校として各校種との調整や連携を図り、スムーズに開催できた。 防災教育は、中学校の防災主任と連携し、避難訓練などを生徒にわかりやすく計画できた。救急法講習会や薬物乱用防止教室も中学校と合同で実施することができた。
	地域中学校との連携強化及び入学生徒数の確保	<ul style="list-style-type: none"> 中学校への魅力発信の取組の充実。 令和7年度入学者数の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験入学及び学校紹介動画の内容の充実とマスコミ等を活用したPR。 在校生の状況に関する情報共有を通して本校の丁寧な対応のPR。 専門機関や地域と連携した特色ある教育活動のPR。 分校ニュースをカラー印刷で増刷。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 体験入学は昨年同様、中学生の参加者が10名を超えた。 様々な学校行事、地域や専門機関などと連携した教育活動等の情報を報道機関に提供し、ニュースや新聞で取り上げられた。 学校紹介DVDを管内中学校に配布した。
	五木村関係機関や団体との連携と行事等への協力	<ul style="list-style-type: none"> 分校独自の教育活動の展開。 五木村の教育活動への参画。 警察と連携した交通安全指導等への参加。 消防署と連携した、救急法講習や防災教育の実施。 月初めにあいさつ運動の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内の分校3校が連携した教育活動の実施。 東京大学先端科学技術研究センターと連携した教育活動の実施。 五木村人権教育推進協議会、五木村青少年育成会議への参加。 五木村で行われるあいさつ運動、交通安全運動への生徒会を中心とした積極的な参加。 中学校との連携を密に図り関係機関との調整を円滑に実施。 地域の方々への挨拶により、地域との良好な協力関係を構築。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 県内3校の分校が連携した交流学習を実施することができた。 五木村の祭りでは、イベント企画を実施するとともに、展示ブースを設置し、学習活動の成果を広く発信することができた。 家庭科や探究活動など地域の方を講師に招いた教育活動を積極的に行つた。 五木村の各種会議に参加することができた。

	業務改善 働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と向 き合う時間 の確保 ・職員の多 忙化解消 <ul style="list-style-type: none"> ・職場環境の整備。 ・職員の生産性の 向上。 ・文書管理、データ 管理の効率化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文書管理、データ 管理に関する職員 研修の実施。 ・校務のデジタル シフトの推進。 ・衛生推進会議の 開催。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・文書、データの管理に について効率化につながる I C T活用を今後より実 践していく必要がある。 ・時間外勤務の削減を進 めるための業務分担の見 直しや留守電の導入等を 実施したことで、改善が 見られた。
学 力 向 上	教育課程	教育課程の 検討実施	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の実 施と評価方法の検 証。 ・社会に開かれた 教育課程の編成・実 施と、カリキュラム マネジメントにお ける教科横断的授 業の検討。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の完 成年度に伴い、観点 別の評価方法の検 証を促進するため、 教科面談を実施。 ・進路指導と連携 した、生徒の就職や 進学等、幅広い進路 選択に対応できる 教育及び職業教育 の指導計画の推進。
	基礎学力 の定着	学校設定科 目「ステッ プアップ」 の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間の向上心の 高揚を図り、以下 のような昇級を目指 す。 1年…7段階昇級 2年…6段階昇級 3年…5段階昇級 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年を3段階 の習熟度別グル ープに分け、T Tによる 振り返り学習の 実施。 ・1級以上合格者 に対しては、I C T 端末機器を活用す るなど、進路に応じ た個別指導の実施。
		家庭学習時 間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の課題未 提出者0、及び取組 の深化。 ・考查前の学習時 間(1日平均)を一 年生は1時間30 分、二年生は2時間 三年生は2時間3 0分を目標とする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の連絡ホ ワイトボードを利 用した教科担当と 担任との連携の深 化、及びI C T機器 等を活用した生徒 の自己管理能力の 育成。 ・学力向上を目指 した課題の作成。 ・考查前学習会を 有効に使った学習 時間の確保及び学 習時間調査の分析。
	授業の充 実	「達成感の ある授業」 の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業内 容の充実と授業力 の向上。 ・生徒の学力に応 じた授業の工夫と 個別指導の充実。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・I C T機器を利 用し、探究的な学び 等を意識した公開 授業及び研究授業 による授業力の向 上。 ・各定期考查前学 習会の実施。 ・個別の教科面談 を通して、生徒個々 の目標設定と、目標 達成に向けた取組 の指導。 ・授業等における 学習支援員との連 携。 <ul style="list-style-type: none"> ・I C T機器を活用し、 資料の提示やレポート の作成などを行った。 教師のU-K I指数は平均 で5.5であった。 ・公開授業及び研究授業 を通じて授業力向上を 図った。 ・考查前には学習会を実 施し、学習面でサポー トできた。 ・教科面談を実施し、生 徒の実態に沿った、個に 応じたアドバイスを具 体的に実施することができ た。 ・特別支援教育支援員と 連携し授業の充実を図 った。

キャリア教育	授業時間の確保	学校行事の精選。	・行事の内容と期間の見直し。 ・時間割変更における調整。	A	・各校務分掌と連携し、授業時数を確保しつつ多くの行事を実施することができた。 ・8月の体験入学での生徒の意見発表では、自他ともに生徒の成長を実感できる内容にすることができた。
	研究授業の実施と授業改善	・研究授業の実施。 ・「学びの基礎診断」を活用した授業改善。	・研究授業後の合評会の充実。 ・「学びの基礎診断」の結果を生徒理解研修の資料や、教科面談シートに掲載して職員間で共有し、授業改善に役立てる。	B	・数学Bで研究授業を実施し、教科の垣根を越えて合評会を行った。 ・「学びの基礎診断」の結果を生徒理解研修の資料や、教科面談シートに掲載して職員間で共有し、授業改善に役立てることができた。
	キャリア教育の充実	キャリアガイダンスの充実	・3年間を見通したキャリア教育計画の再構築。 ・外部講師による進路学習を実施。 ・ICTを活用した進路学習の実施。	B	・概ね計画通りに実施できた。ICTを使用して進路について情報収集も行った。 ・消費者教育、租税教室等は対象を3学年への変更で社会人向けの内容ができた。 ・クリエイトハイスクール・OneTeamプロジェクト事業を行っており、LHRや総探の時間で進路学習の時間の確保と年間計画の見直し等が課題である。
	就労観の育成		・インターンシップの実施	A	・インターンシップでは生徒の実習態度等が受入事業所から高く評価された。今後の進路選択につながる活動ができた。
	「総合的な探究の時間」における系統的な探究学習の充実		・協働体験学習を充実させ、社会生活に必要なコミュニケーション能力や思考力、創造力の育成。 ・地域や大学と連携した活動を通して思考力を高め、視野を広げる。	A	・少人数ながら、互いに協力して様々な活動を行うことができた。 ・東大先端研との連携授業や地域巡検等で地域への理解を深め、生徒が主体となって行う活動ができた。 ・人吉球磨地区県立学校実践発表会や分校同盟では、日頃の学習活動の成果を堂々と発表することができた。
個に応じた進路指導	各自の進路希望に応じた個別指導の実施	・生徒一人一人の希望に応じた進路目標の決定及び、進路目標達成100%。	・進路希望調査及び個別面談を適宜実施し、個に応じた個別指導や面接指導を行う。 ・関係機関と連携して、個別指導の充実を図る。	A	・担任を中心に、それぞれの進路達成に向けた個別指導を行った結果、3年生の進路目標100%達成できた。 ・1、2年生について個別の進路面談を行った。

生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら生活の質を向上させようとする姿勢の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活の記録」の毎日の提出。 ・気になる生徒への担任面談の実施と保護者との連携。 ・呼びかけや見本掲示による整理整頓の習慣化。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻や欠席があった場合以外にも、授業中の気になる行動等を、担任を中心に職員全体で共有し保護者とも連携を図ることができた。 ・ストレスによる不安や体調を崩し欠席が続く生徒がいたので、生徒の心身の健康を維持することが今後の課題である。
	規範意識の高揚		<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や学級活動を通じ、集団の一員として取るべき行動を学ぶ。 ・自らの言動が、周囲に与える影響を意識する力を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導、整容や言葉遣い指導等を通して社会人として通用するマナーやモラルの育成。 ・行事等を通し認められる機会を増やし他者を認める経験を積む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・普段が少人数での生活のため、甘えが見られる場面もあったが、役割を与えられることで、事前に準備ししっかりやり遂げようとする姿勢が培われた。 ・責任を全うしようとするため、相手に対して厳しい発言をしてしまう場面が見られた。すべての人が心地よく過ごせるためのコミュニケーション能力を付けることが今後の課題である。
	家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動、トラブル等を未然に防止するため、家庭から相談してもらえる関係性を構築。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期のいじめアンケート調査、生徒の日常観察、家庭との密な連携等の生徒に関する情報を全職員で共有、対処することによりトラブルの未然回避。 ・学校での生活に対する保護者理解を深めるため、分校ニュースやすぐ一覧の有効活用。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の振り返りアンケート、毎学期の心のアンケートを通し、生徒自身が振り返る時間を重視できた。家庭からの相談も来ており、信頼関係を築くことができた。 ・自分の気持ちを表出することが苦手な生徒がいるため、正しく伝える力をつけさせたい。
	生徒の主体的活動の充実	主体的な生徒会活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒の生徒会活動への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒が生徒会の係を分担し活動を行い、生徒総会、月例集会の生徒会による運営の充実を図る。また、定期的に委員会を実施し、生徒会の一員としての活動機会を充実させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会選挙において、副会長への立候補が出ず2度選挙を実施した。その過程を通して生徒がより深く生徒会活動について考えることができた。 ・2学期末から毎月の目標を生徒会執行部で立てるようになった。3学期は委員会活動へも波及させていきたい。
	放課後の時間を活用した学校生活の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への積極的な参加や自らの課題と向き合う学習への取り組み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に積極的な参加を促すとともに、様々な体験を通して新たな目標を持たせる。 ・自らの課題の理解と自己管理能力の育成を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒人数の減少の影響か3年生引退後には部員が0人になる部活動もあり、積極的な活動は難しかった。その時間を使い、勉強に取り組む生徒はいるが、苦手の克服に留まっており自己肯定感や自主性の上昇へはまだつながっていない。

人権教育の推進	個々の生徒に応じた適切な指導	生徒一人一人の状況把握と柔軟な対応	<ul style="list-style-type: none"> 各学期1回以上、職員研修(生徒理解や特別支援等)の実施。 毎週の運営委員会での生徒の状況報告と実態把握。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部の専門家との連携を密にした積極的な活用。 生徒理解の資料作成と、全職員が生徒個々の特性と現在の状況を共通理解し指導に生かす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎学期の生徒理解研修に加え、二学期から月2回生徒共通理解の時間を設け、担任が作成した資料を元に、具体的な場面での生徒の行動や職員の対応について意見を出し合うことができた。
	生徒と教職員、生徒同士の望ましい人間関係の構築	生徒と教職員、生徒同士の望ましい人間関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した人権教育LHRの計画的な実施。 各行事を通して、生徒の自尊感情の定着と互いを認め合うことのできる育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとにテーマを設定しわかりやすい授業を実践する。 学校行事では、生徒全員が互いに協力して作りあげる取組を重視した計画を立てて、全職員で支援にあたる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> LHRで「ハンセン病回復者の人権」、「情報化社会における部落差別」を取り上げ、実施した。 一部生徒同士や、職員と生徒との間での言葉のやりとりに誤解が生じたりする場面があるなど課題が残る。
	命を大切にする心を育む指導	命を大切にする心を育む指導	<ul style="list-style-type: none"> 各学期「自他の価値を尊重する意欲や態度」を育む授業やLHRの実施。 月例集会講話などで思いやりの心や強い心の醸成。 ボランティア活動の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科科目の授業で、「命を大切にする心」についての授業を行う。 LHR、総合的な探究の時間や月例集会等を活用し、日頃から「思いやりの心」について講話をを行う。 ボランティア活動による自己有用感の深化。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒部アンケートなど自分の発言や行動を振り返る機会は多かった。互いを思いやる心は持っていても、どう表現して良いか分からなかったり、感情にまかせた言葉を発したりするなど行動に結びつけることが難しい。 ボランティア活動を通して自主性や自己有用感を深めるための働きかけ方について工夫が必要である。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針の着実な推進	いじめを許さない心を育む指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> いじめ等について安心して相談できる雰囲気づくり。 いじめに気付き、だめと判断できる学校全体の土壌づくり。 職員間における生徒の情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体指導と個別面談を通し、いじめの未然防止に取り組み続ける。 月例集会等を活用し、少人数で密な関係にあるからこそ気づきにくいことについての注意喚起をする。 生徒情報を職員間で共有し、小さな変化を見逃さず、早期発見、早期対応、早期解決、再発防止のできる体制と環境づくりを行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係でのトラブルは数件起こっているものの、いじめと認知される案件は0件であった。 毎学期の心のアンケート以外に、毎月の振り返りアンケートと職員による生徒情報共有が習慣化できたことで、月例集会でのタイムリーな話や生徒のサポートができた。
	生徒の状況把握と迅速な指導体制の構築	生徒の状況把握と迅速な指導体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口の周知と日頃の生徒間の行動観察と情報共有。 年3回の心のアンケートの実施と外部の専門家を活用したいじめ問題対策委員会の毎学期実施。 いじめ防止基本方針の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口を合格者説明会、入学式、1学期始業式、五木秀麗会総会で生徒保護者に周知徹底。 健康相談・教育相談担当、担任の日常観察及び運営委員会報告等、全職員が生徒の変化を掌握了上で適宜対処。 いじめ防止に関する職員研修の実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 相談機関の周知徹底を夏休み前にも行った。 自ら相談に来る生徒もいるが、全ての生徒にとって相談しやすい環境をつくるために、工夫と検討が必要である。 少人数であることが、生徒・家庭・職員間のより深い関係づくりにうまく作用している。 日々細やかに対応できているが、生徒はいじめを許さない教育についてあまりなされていないと感じていることが課題。

地域連携（コミュニケーションなど）	学校運営協議会をベースにした、地域と一体となった連携体制の構築	地域や関連機関との連携の確立	<ul style="list-style-type: none"> 行政、地元小中学校や保護者、地域住民代表と連携し、計画的な協議会の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 五木分校の教育活動の説明、主な行事の視察と承認。 五木分校への地域貢献活動のニーズの把握。 五木東小学校、五木中学校の運営への協力。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に学校運営協議会を開催した。 道の駅や茅葺き民家など五木村の観光施設での清掃ボランティア活動など活動場所の見直しや改善を図ることができた。 中学校とは合同での講演会などを実施できているが、小学校などと連携した活動が実施できておらず今後検討が必要と考える。
	防災教育の充実		<ul style="list-style-type: none"> 学校防災年間計画の作成および防災教育の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の防災意識を高める取組および中学校との合同防災訓練（風水及び土砂）などの実施。 各部所において、防災の視点での行事の計画。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育は、中高連携で行った。 学校安全計画を積極的に活用し、行事の計画を行った。
職員研修	職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事の根絶 <ul style="list-style-type: none"> 人権意識といじめに対する感性の向上 ICT活用 授業改革 	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事0に向けた規範意識の高揚。 人権意識の向上、規範意識の高揚。 ICTを活用した授業改革。 ICT指導力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な職員研修と職員朝会での機会を捉えた注意喚起。 言語環境を整え、人権意識の高い職場環境への醸成。 公開授業や研究授業に向けた研修等の実施と研究会等への積極的な参加。 授業におけるICTの日常的活用。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修や朝会で不祥事防止や交通安全の遵守や情報管理について注意喚起を行った。 生徒の実態や課題に沿った外部講師を招聘し、人吉高校定時制と合同で研修を行った。 ICTを積極的に活用し他校と連携した交流学習や専門機関と連携した学習などが実践でき、教育活動の幅が広がった。

4 学校関係者評価

（1）学校経営について

- 小規模校、少人数の教育を生かした経営をされている。「五木分校に来て良かった」「五木分校に通わせて良かった」という、生徒や保護者からの声が聞かれ、これが五木分校の魅力だと思う。
- 地域に根差した教育活動が盛んに行われている様子が伺える。
- 学校が発行する「五木分校ニュース」を通して、学校の様子がわかり、生徒の明るさを感じる。

（2）学力向上について

- 学校評価からも窺えるが、生徒の進路保障もしっかりと行われ、確実に学力向上が図られていると感じた。
- 入学時の学力レベルはわからないが、生徒一人一人に応じた対策がなされていることで、学力が向上したと思う生徒の割合が高いと思う。
- 学校設定科目「ステップアップ」で、取組む課題に級をついているのは、生徒が達成感を感じることに繋がっているだろう。
- 学力が身につく取組だけでなく、社会的な学力を伸ばしてほしい。社会性や人間性を身に着けさせることも大切であり、生徒にとっても学校が楽しいを思える。
- 学校全体が生徒一人一人に向き合っており、生徒も一生懸命、取組もうとする姿が見られる。

（3）キャリア教育について

- 3年生の進路目標100%達成から、様々なキャリア教育が充実している様子が窺える。
- 今後も、生徒のニーズに合った、きめ細やかな進路指導をお願いしたい。
- 地域との連携を強化した進路指導、企業や地域住民との連携を深めてほしい。

(4) 生徒指導について

- ・全ての教育活動において、生徒一人一人を大切にしている様子が日常的に窺える。
- ・家庭との連携がしっかりとれていることは素晴らしい。相談体制の保護者の評価が高いので、保護者の安心度や信頼度が窺える。
- ・日頃から様々なことを職員が共有していることが、いじめ防止や生徒の言動に繋がっていると感じた。
- ・一般的に自己肯定感が低く、対人関係が苦手な傾向が多くなっている。個に応じた教育相談や相談しやすい体制づくりなど、生徒に寄り添う学校づくりを期待する。

(5) 人権教育の推進について

- ・五木村の人権啓発の取組として行っている標語募集に、毎年応募してもらい感謝している。毎年、素晴らしい作品が多く、感心している。
- ・人への思いやりや他人を大切にする心を育ててほしい。
- ・人権問題への意識を高め、実生活に生かすことができる教育をしてほしい。

(6) いじめの防止等

- ・いじめの防止には、今後も日頃から生徒の観察や情報の共有、早期発見・早期対応に心がけてほしい。
- ・いじめ防止の取組や人権感覚の涵養は生徒や保護者の目に見えるにくいものではあるが、生徒も保護者も高い評価であり、いじめ防止をしっかりと推進されている様子が窺える。
- ・教職員、保護者、生徒が協力していじめを防止するための教育プログラムを作成してはどうか。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について

- ・ここ数年、村との連携が密になっており、地域の学校として嬉しく思う。
- ・今年初めて、地域の食生活改善協議会の会員が調理実習の講師として授業に関わったが、それぞれの得意不得意がある生徒たちが、互いに協力して活動する姿を会員を見て、うれしく思った。
- ・今後も地域と関わりのある活動を積極的に行ってほしい。
- ・地域の人が積極的に学校教育に参加する仕組みづくりや地域との密な連携を期待する。

5 総合評価

教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉・球磨地域にある普通科の人吉高校の分校として、地域はもちろん、外部専門機関とも連携し、小規模校の特長を最大限に生かした、魅力ある教育活動を充実させ、心豊かで調和のとれた人材の育成を実践することができた。

本年度も重点目標として、「一人一人が輝く分校生」を教育スローガンに掲げ、自己管理能力の育成、I C Tを活用した教育活動の深化、多様な生徒への対応、地域に根ざした特色ある取組の推進を行ってきた。学校運営協議会の皆様からはこれまでの取組を評価するとともに、地域理解に努め、より地域の行事への参加や地域の人材を活用した教育活動を充実させるとともに、外部専門機関と連携した地域の特色を生かした取組を通して、地域とともにある学校づくりを期待するお言葉をいただいた。

(1) 学校経営について

- ・全体的に高評価で、小規模校ながら、外部機関と連携することでの専門的知見を活かした教育活動や、地域との関わりをより深め、五木分校ならではの魅力ある教育活動を実践することができた。
- ・様々な教育活動を通して、多くの人との交流や意見交換等の機会があることで、本校の課題である生徒のコミュニケーション能力を育成することにも繋がっている。

(2) 学力向上について

- ・基礎学力の定着を目指した学校設定科目「ステップアップ」では、生徒が達成感を感じることができ学習意欲の向上に繋げることができた。
- ・考查後の教科面談を通して、一人一人の課題や学習状況を生徒と教員が共有することで、学習意欲の向上が見られた。

(3) キャリア教育について

- ・総合的な探究の時間では従来の活動に加え、県内の分校との連携授業や東京大学先端科学技術研究センターの専門的知見を活かした地域理解の活動などを充実させることができた。さらに、人吉球磨地区県立学校教育実践発表会での成果発表やK S H学びの祭典での活動紹介など、生徒が様々な場面で日頃の活動を発表することで、探究活動への意欲を高め、自信をつけることができた。
- ・生徒の多様な進路希望に対応するため、特に就職においては、外部機関とも連携した指導体制を構築することができた。

(4) 生徒指導について

- ・日常の学校生活での気づきを職員で共有し、声掛け指導をするとともに、毎月の全校集会で学校全体として指導することで規範意識の喚起と改善が図られた。様々な活動において、生徒一人一人に役割があり、責任を持ってやり遂げる姿が多く見られた。小人数であるため、行事など生徒会活動や各種委員会をどう活性化していくか、今後も工夫が必要である。

(5) 人権教育の推進について

- ・日頃から、必要に応じて生徒情報の共有や課題の検討を行う時間を設定するとともに、スクールカウンセラーによる職員研修を実施し、全職員で生徒理解を深め、個に応じた対応を迅速に行うことができた。
- ・普段の授業や行事での協働活動を通して、自分と他者の命や存在を大切にし、思いやりのある発言や態度について考え、生徒自身が自分たちの行動を振り返る機会を設定することで、人権意識の涵養に繋げることができた。

(6) いじめの防止等について

- ・他者とコミュニケーションを取るのが苦手な生徒もあり、職員による日々の観察や毎月、生徒が自分自身の言動について振り返る機会としてアンケートを実施し、トラブル等の早期の対応と事後のフィードバックを行っている。様々な面談を設定し、学校全体で相談しやすい雰囲気作りに努めることで、生徒の悩みや困り感に対し迅速に対応し、いじめの未然防止を図ることができた。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について

- ・地域の方々に御協力いただき、地域理解を深め、地域や小人数である特長を生かした教育活動を実践できた。さらに、地域のまつりに参加することで地域の方々との交流を深めるとともに、学校の活動をメディアで発信するなど、学校の魅力向上に努めることができた。また、保護者の学校への参画意識も高く、長距離走大会では交通指導やうどんの振る舞いなど、事前の準備から協力を得ることができた。今後も地域や保護者と連携しつつ、外部専門機関の知見も生かしながら、教育活動のより一層の充実を目指したい。

6 次年度への課題・改善方法

【課題】

学習習慣の確立を通した自己管理能力の育成

【改善方策】

日頃から学習中心の生活を意識させることで、生徒の意識改革を図るとともに、家庭と連携しながら基本的生活習慣を確立させていく。さらに、将来の進路も見据え、日々の振り返りや段階を踏んだキャリア教育を充実させ、自己理解を深めるとともに、自己管理能力の育成に繋げていく。

【課題】

五木分校ならではの、小人数かつ地域の特色を生かした教育活動の充実と学校の魅力向上

【改善方策】

外部機関と連携し先端の知見を活かした探究活動を進めるとともに、地域を学びの場として、地域の人材や特色を生かした体験活動等を充実させることで、創造的な思考を育む。

【課題】

生徒の対人スキルの向上

【改善方策】

他者への伝え方や表現の仕方など、コミュニケーションをとることの苦手さを解消するため、学校の様々な教育活動の中で、仲間や他校生といった同世代だけでなく、地域、また専門機関等と連携し、多様な人たちと関わる機会を設け、状況に応じた対応やその対処法などを意識することができるよう、継続的に指導していく。